



平成 27 年度 「まこ × まち Social Design Project」について

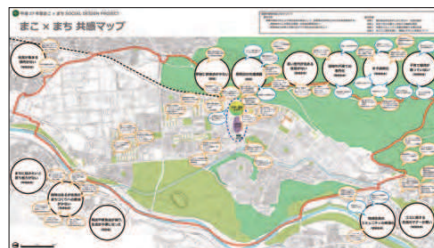
平成 27 年度「まこ × まち Social Design Project」とは

平成 27 年度「まこ × まち Social Design Project」では、過年度の取組結果を念頭に置きつつ、地域の土地利用再編・エリアマネジメント推進を見据え、楽しみながら、向き合うべき地域課題の共有・共感と、そこから地域の将来イメージを創出・共有することを目的に、地域の多くの方に参加して頂く「まこ × まちプロジェクト」と地域のまちづくりについてより深く考え話し合ったり「まこ × まちプロジェクト」の企画立案を行う「プロジェクトミーティング」の二つの取組を進めます。

「まこ × まちプロジェクト」は以下の 3 つの活動を予定しており、「プロジェクトミーティング」は「まこ × まちプロジェクト」の開催に併せて適宜開催します。

※第一回「プロジェクトミーティング」は平成 27 年 8 月 31 日に開催されました。(結果詳細は中面)

また、今年度は向き合うべき地域課題に対する議論や取組成果を「議論・取組の見える化マップ」(右図)にフィードバックし議論を深めることで、新たな交流・賑わい・地区イメージの創出と、誘導すべき機能や空間イメージの共有を目指します。



まこ × まち 共感マップ

今後の取組み

●まこ × まちミッション 2 (実施済)

平成 27 年 9 月 26 日 (土)

ミッションをクリアしながら真駒内駅前周辺を歩こう!

まちを歩いてミッションをクリアしながらまちを知ること、多世代の交流で賑わいを創出すること、地域の人との触れ合いでまちへの愛着心を生み、将来のまちづくりの担い手を育てることを目的とした「まこ × まちミッション 2」を開催しました。



●まこマルシェ・まこ × まちアート&クラフト

平成 27 年 11 月 (予定)

訪れた人が真駒内及び南区の魅力を発見し、出展する人や訪れた人の繋がりが地域と地域の繋がりを醸成すること、賑わいを創出することを目的に、南区を中心とした地域で採れた野菜等や地域で活躍する芸術家などの作品を販売します。

●まこ × まち 2016

平成 28 年 2 月 (予定)

各まこまる事業者の催し物の開催と同時に、平成 27 年度「まこ × まち Social Design Project」の取組紹介、地域で行われているまちづくり活動の紹介、想定される真駒内駅前地区の将来イメージを掲載します。

発行者 (共同発行)

- 真駒内地区連合会 〒005-0014 札幌市真駒内幸町 2 丁目 真駒内まちづくりセンター
TEL. (011) 581-3025 FAX. (011) 581-8020
- 札幌市 市民まちづくり局 〒060-8611 札幌市中央区北 1 条西 2 丁目
都市計画部地域計画課 TEL. (011) 211-2545 FAX. (011) 218-5113



真駒内まちづくり通信

SAPPORO
平成 27 年 9 月
第 7 号



平成 27 年度

「まこ × まち Social Design Project」が始まりました!

ソーシャル デザイン プロジェクト

「まこ × まち Social Design Project」とは

札幌市では、真駒内駅前地区の交流促進やまちづくり活動の活性化及び「真駒内駅前地区まちづくり指針」(平成 25 年 5 月札幌市策定)に係る土地利用再編の取組について、地域の意見聴取や地域での議論を深めることを目的として、平成 26 年度から「まこ × まち Social Design Project」に取り組んでいます。

平成 26 年度の取組概要

平成 26 年度には以下の 6 つの活動に取組みました。



1. まこ × まちミッション

封切りイベントとして、「まこまる」の愛称やロゴ・看板デザインのモチーフを決める「まこ × まちミッション」を開催しました。

2. まこ × まちスマイル

「まこ × まちスマイル」のバッジを作成してイベント参加者に配布し、プロモーションを行いました。

3. まこ × まち人時計

平成 27 年 4 月の「まこまる」オープンに向けて、毎日フェイスブックで、オープンまでの日数を未来の真駒内に向けてのメッセージと共にカウントダウンする、「まこ × まち人時計」を配信しました。

4. まこ × まちつばやき投票

平成 26 年度に開催された「真駒内の未来を考えるまちづくりアイデアコンペ」において、入賞した作品を地域のみなさんに知って頂くとともに、意見や感想などの「まちの声」を集める「まこ × まちつばやき投票」を開催しました。

5. まこ × まちカフェトーク

平成 26 年度に開催された「真駒内の未来を考えるまちづくりアイデアコンペ」において、入賞した作品を地域のみなさんに知って頂くとともに、受賞者の方々を招いてアイデアについて直接話を伺い、未来の真駒内地域の方向性やまちづくりのアイデアについて話し合う「まこ × まちカフェトーク」を開催しました。

6. まこ × まち 2015

まこまるで行われる事業や平成 26 年度「まこ × まち Social Design Project」の取組結果を紹介することを目的としたパネル展示を行うと共に、「まこ × まちカフェトーク」で出されたアイデアを試行しました。

第一回「プロジェクトミーティング」を開催しました！

第一回プロジェクトミーティング 目的

- ◆第一回「プロジェクトミーティング」では、過年度から地域のまちづくりに携わってきた方や地域のまちづくりに興味がある方にご参加いただき、過年度の取組の結果や地域の将来イメージを共有しました。また、エリアマネジメントの参考事例についても学び、「まこ × まちプロジェクト」※1 の企画立案を行いました。

※1「まこ × まちプロジェクト」については、表のページで詳しく説明しています。

第一回プロジェクトミーティング 開催概要

- ◆開催日時 平成 27 年 8 月 31 日（月） 15：00～17：00
- ◆開催場所 まこまる Co ミドリ 1 階会議室 真駒内幸町 2 丁目 2-2
- ◆主催 札幌市市民まちづくり局
- ◆参加者 15 名（真駒内地域住民を中心とした札幌市民のみなさん）
- ◆一日の流れ
 - 15：00 開始
 - 15：05 真駒内駅前地区で行われた過年度の取組の振り返りと地域課題、取組アイデア、将来イメージの共有
 - 15：30 エリアマネジメント事例紹介
 - 15：45 平成 27 年度まこ × まちプロジェクトについて
 - 16：45 発表
 - 17：00 終了



第一回プロジェクトミーティング意見結果

これから地域で取組みたい・取組んでいくべきこと

これまで出された取組のアイデアなどを参考に、これから真駒内地域で実際に取組んでみたい・取組んでいくべきことを参加者の方々に話し合ってもらいました！（以下は一部抜粋です）

●商店街の魅力高めつつ駅前商店を充実させる

- ・駅前に商店や飲食店が少ないのは、真駒内地域のまちづくりで始めから規制していたからだが、駅前に新たに飲食店や商店を多く設置すると商店街の人が困る。まこまるなど今ある施設を活用して増やすと良い
- ・ミュージクリスタルも 2 階など活用できるのではないかな
- ・“品揃え”ではなく、“人との出会い”で人を呼べるようにしたい など

●真駒内らしい駅前を守る

- ・真駒内駅前に飲食店や商店が少ないのは意図的なものであり、真駒内らしさでもあると思う
- ・真駒内らしさを保つのは良いが、発想を変えなくては駄目だと思う。駅前で飲み歩けるような店舗があってほしい
- ・澄川駅や南平岸駅と同じような駅前になってしまっただけ個性がない。洗練された複合商業施設であれば真駒内の雰囲気合っていると思う
- ・“にぎやか”をキーワードにしすぎず、今の真駒内の良い“静かさ”も大切にしたい
- ・人が減っていく事は防ぎたいが、静かさを活かしてカフェや古本屋などが並ぶのも良い など

●活動の中心となる組織をつくる

- ・取組のアイデアは全て良いと思う。それらを実行するためには、中心となって取組んでいく組織がないと進まない
- ・中心となってみんなを引っ張っていく人物がいないと始まらない など

●ニーズに合わせて改善し学生の住めるまちに

- ・地代が高く、一人暮らし向けの部屋が少ない現状
- ・UR 団地は高齢化が進むにつれて、上層階から空き家になっているので若者の需要はありそうである
- ・シェアハウスなど、若者に人気があるのでそのような活用ができると良い
- ・駐車場や便利なお店が近くにあることも大事になると思う など

●朝市やマルシェを定期的に開催する

- ・朝市やマルシェはイベントとして一度きりではなく、定期的に行う事で盛り上がるのではないかな
- ・神宮マーケットも定期的に開催されており、人気がある
- ・青少年会館コンパスでもマーケットを開催しており、賑わっている など

●交流の場を広げる

- ・駅前では、騒音などに配慮してたくさんのイベントは開催できないが、年に一回の盆踊りは開催したい
- ・「イベントを通じて交流する」と一般的に言われるが、体験としてイベントに参加（手伝い）をしながら交流をする事は、意外と難しいという印象を持った
- ・参加は上手く自然な流れで交流できるようなものになれば、人が集まりにくい。例えば料理教室を商店街で開催する、昔あそびを教えあうなど別な目的とセットで交流を持てるようにしたい

●まこまるでイベントを行う際の手続きや条件を明確にする

- ・同じ内容のイベントなのに開催できるものとできないものがある
- ・イベントなどの開催の方法、手順、基準などを明確にし、共有する必要がある など



●まちづくりの担い手を見つける

- ・地域の人がもっとこのような話し合いの場にかかわる必要がある
- ・地元の人にもっと参加してもらいたい。
- 開催する日時の工夫やまこまる事業者と連携した周知、情報発信をおこなう など

●空き家・空き部屋を活用したい

- ・空き部屋を活用するアイデアは良いと思う。五輪団地も空き部屋が目立ってきている
- ・札幌市中央区のスペース 115 のように作家さんが住んで物販もできるような空き部屋の活用が良いと思う
- ・五輪団地の空き部屋活用は交渉が難しそうだが、最近では五輪団地の駐車場がコインパーキングに変わってきているので、もしかすると可能なことかもしれない
- ・保育施設として活用する。
- ・核家族化が進んでいるので世代間交流ができるスペースにする など



●まちを紹介する MAP を作成する

- ・見えないところ、見つけにくいところにお店が多いので地域 MAP を“食事”などテーマに分け、学生目線で作成すると良いと思う。
- ・エドウィンダンについて知らない地域の人はまだ多く、駅からエドウィンダン公園までのルートも知らない人が多いのでマップに掲載してはどうかな
- ・MAP の配布は真駒内で開催されるイベント（花火大会など）の時に配布し、イベントにプラスして真駒内を歩いてもらえるようにするとより効果的だと思う など

●まずはエリアやテーマを絞って活動を始める

- ・真駒内は広域であるため、地域全域で考えるとまちづくりを行うのが難しい
- ・アクションを起こすという意味では、何か一つにしぼって、実際にみんなでやってみる
- ・まずはエリアやテーマをしぼって活動し、それがまちに拡大していくようにする など

